

アサマツケ、ドウダンツツジが特に多く、ヤマモモは附近の立石と共に尤限產地である。
附記 土地の人の話によるとヤマモモに2種あるとの事である。

- (1) 果実が小形で赤い ----- ヤマモモ
(2) 果実が大形で白味がかつた赤 ----- シロモモ

(堀 芳 齊 記)

高浜方面海產物採集記

8月12日 日 晴天

若狭湾を東から西へと四度目の総合採集会である。敦賀港を振り出しに、幡神、大島、そして此の度の高浜と、目ぼしい要所を順々におして来て、とうとう黒堀の高浜に達してしまったので、一同がうち揃って、小浜湾に出掛ける採集会はこれが最後であろう。

午前5時40分乗車、海產動物採集の常連は、田尻、伊藤の両氏と私の三人である。リュックと胴糸とのききの揃いのいでたちも勇ましい。三人が三人とも宝物でも採りに行くようだ、いとも美しい夢を描いては何時も出掛ける。採集同人はみんなこんな気持なんだろうか。

高浜について、内海湾音海行きを計画していたのだが、便船の都合もつかず、こゝ高浜を根據地として、二泊三日の採集を決心した。

昨年は和田の海水浴場で、キンカクラケ、カツオノエボシ、ハナデンシヤ等の珍品を採集して得意であったが、今年も又何か珍奇なものを見てこんで心をときめかしている。採しあぐんでいるものが見つかった時、珍しいものが発見できた時の歓喜は、そのことの経験ある者のみの語りぐさである。

旅装を解くや否や海に飛び出す。重一つ無い土用の青空に高く、浜一面に干網が海の涼風になびいている。

「干網浜に高くして、かもめは波に低く飛ぶ」

首痴の私が思わずこんなことを口ずさんでしまった。全くその歌のようだ光景で、越前若狭と他の海岸には余り見ない風景である。浜小屋の日陰で網の縫いに余念のない老翁に説しかけた。

「暑いのにようお精が出ますね、並須何がとれるんですか」

「いや、さつはりですがね」

京都弁に近い漁師の語が耳に餘る。

「あの漁に干してある網はえびでひととるんですか」

「えびひとるんではありませんけどな、かれい、たい、のぼるなんひとる網とすわい。」

私はこの夏厨で見た、えび網と同じものと思つていたが、魚をとるたとの藤網らしい。だんだん聞いて見ると、この藤網は春からずっと続けていて今が一番の不漁だが、海水浴客の食膳を賄わすため採集を度外視して続行しているとのこと。ともかく藤網は、厨でも、遠く神奈川県の真鶴でも、この網下の採集は労少なくして、収穫の多いのが特色である。悪いの通り、網下を探して見ると、小魚やかにの干からびたものが夥しく散らばっている。この分では明早朝の網下採集が楽しめるでここおどりする。

城山の磯にて採集を始める。海水浴客に荒されたたのか、手ごろな石は悉くひっくり返されて目もあてられない光景、福先生に教えられて是非採集したいと意気込んでいた。トウナスカイメンもどうどう見当らずついで意外な不漁に落胆して宿舎に引揚げる。

夜は明早朝の藤網採集にそなえて、早々に就寝した。

8月13日 月 晴

早朝3時に起き出でて船つき場に船を待つことしばし、沖合から、幾十ものともしげが漁に帰ってくる。バツテリイを使ってのまぶしい程の電光である。岸にはそれそれの船の家族が何人も獲を待っている。今日一日の早起も余程の勇気がいつたのに赤る日も暮る日のこと、漁師の家族も来ではないようだ。船から又の近い網が岸にあけられる。船着場のうす暗い電灯の下で網の整理が始まる。見ればそれ等の網に時たまメバル、タイ、カレイ、コチが網目に頭を突込んでまだえている。それはそれは気臭な程に少ない漁である。だがこの網から取っては捨て、ちぎっては海に振りこむ。ざこやかには頗る多い。中でもテナカコブシガニ、キメンガニ、サメハタハイケガニ等はこの藤網に集団投降して来たのではないかと思う程に夥しい。わけてもテナカコブシガニは一番の厄介もの、長いはさみが網糸にからまれて動きがとれなくなっているやつを、荒々しくへし折っては網から外し、さもなくにくしけにコンクリートの上に投げ出されている。完全なものならそれこそ何十何百でもほしい懲張つた我々は、とうとう見かねて網の整理を申し出て、様々のものといともていねいに網から外しとる。時たまグロテクスなオニオコゼがくるまつている。尚且つてこの背びれの棘にでもさわろうものなら、三日三晩泣き通されはならないと浜の漁師さん元恐れているしろもの、海中で集団游泳をしていた一団であろうか。口凹に発光器をもつマツカサウオが十いくつもひっかかってくる。大字通り一網打尽に召し捕えられて吾々の禍乱にほうり込まれる。肩のえび網にはヒラツメガニ、ベニツケガニの類がやたらと多かつたが、こゝ藤網はそれとは趣がちがつて多種多様であるのがうれしい。

まれに大きながザギがひつかつていて、土地の人はワタリガニといつては四ヶ浦亘でも同じ名で呼んでいた。名の如く游泳が頗る上手で渡り歩くからであろう。聖い甲羅のこのかにも、時たま肉と内臓をすつかり抜き取られた殻ばかりになつてひつかつてゐるものがある。このうらぶれ姿はかにだけではなく、カレイ、タイ、ミシマオコゼ、コチ、

カワハギ等と同じ運命を辿るやつが多い。全く白骨のみを残れるで頬ますして眞に立派な骨骼標本を造ってくれるのである。

そもそも何という食食家 のしわざであろうか。漁師はバイという貝が吸いとるのだという。又或る人はウミボタルの小さなギヤンク共の集団襲撃だと言う。ともあれ、骨骼標本を造りたい人は藤網に二日程もひっかけておいてもらつたら魚はもとより蛙でも猫でも見事な白骨姿にしてくれるのではないかと思う。しかしこの食食家は、ほしてばらばらにはしないで、肉とそとをしゃぶってくれるすばらしい標本製作品だから妙である。と言うのも軟骨類のエイの完全無欠の骨骼を二つも拾い取つたから確信をもつてこんなことが断言できるのである。

時間のたつのも忘れて、はけつーはいに採集して網の整理がついた頃はもう太陽が東に輝いていた。船着場に着てられたさがにの山は竹席で掃かられて海の中深くもくすと消えていった。

日没リには、城山と鷹の島周辺の磯採集をくりかえしたが、平凡なものゝ数をふやすだけに過ぎなかつた。

8月14日 火 晴

今日も早朝から藤網採集である。

二回目ともなれば網さはきにも馴れて、肩を並べて仕事に余念のない漁師に話しかけるゆとりもできてきた。

時折 貝をかぶつたまゝ網目にとだれるキメンガニやサメハタハイケガニを見つける。上手に貝を背負つてこれ等のカニを漁師はかいがぶりと呼んでいるがまことに適切な呼び名である。奇恵な面相の鼻の下、口もととも思われる辺に左右に長く伸びた脚先の二対の爪は歩脚と反対に上向きにかぎ形に生えているのも、貝は貝を見事に背負つて歩くための丸なのである。

西浜の海には、越前の海には稀なキメンガニ、サメハタハイケガニがやたらと多い。まさか源平の戦がこの海の果にまで行なわれたわけでもあるまいがと冗談まじりに、網から外し取られては怨懐の面相のこの甲羅がはけつの底にうすくなっていく。この甲に刻んだ醜悪な形相も貝はその下にかくし込んだ胃や心臓等の配置されたまゝの凹凸に適さないと思えば、平原の七重の面相だと言い伝えられる伝説にも興がさめる。そのかにどもがこどもあらうにその見にくく甲羅を施すかの様に貝を背負つて歩く。心ねむいじらしい。余程の内気ものかさもなくは身を譲るに 貝明な動物なのであるか。

漁師の話によると大方のかには、おすとめすがアベツクでひつかかって来るものが多いという。かにの世界の情愛の深さがしのはれていとほしい。冬の赤城のズワイガニシロの大さはずたいで、いとも可憐なセイコガニ(ズワイガニのメス)を抱えたまゝで崖邊網から引き揚げられ、尚且その抱擁を解かないという。あなたとながらほどここまでもといらのが

(探)

かに夫婦の書いなでのあるか。

興味尽きない漁師の話の中に動物の世界の生態図が描かれていて心感しい。今日も又愉快な話らしいの中に、はけつーはいの無氣をしてしまった。

この海の3日前に得られたものは次の通りである。○印 新種集

魚類

○ネコザメ, ホシザメ ○サカタザメ, コチ, ミシマオコゼ, オニオコゼ, ハチ, メバル, シマイザキ, イシタイ, マタイ, キジハタ, キス, メイタガレイ, ムシガレイ, カナガシラ, ホウボウ, ヒラメ, テュフセン, カフハギ, エソ, カマス, コノシロ, マツカサウオ, ウシノシタ, ツルマキ

ほや類

カラスボヤ, キクイタボヤ, アカイタボヤ,

棘皮動物

イトマキヒトテ, スナイツテヒトテ, モミジカイ, スノメイトマテ, インデニトテ, クモヒトテ, トゲクモヒトテ, アカヒトテ, マアマニ, フシアマコ, カンパン, アカフニ, ムラサキフニ, バンフニ, ○コシタカフニ, フミシタ sp.

脚足動物

ソノナガコフシカニ, テナガコフシカニ, ヒラツメガニ, ベニツケガニ, イシガニ, イホガサミ, ガサミ, ヒメガサミ, ジュノチトコフシカニ, コシマガニ, アミメキンセンカニ, ヒシガニ, カイカムリ, ヨツバモガニ, トライオガニ, モガニ, キメンガニ, サメハタヘイケガニ, インガニ, イソガニタマシ, ニライソガニ, ヨコエビ, イドテアウミセミ, ウミクモ, フレカラ, アカフジツボ, シロスジフジツボ, フツウヤドカリ, オニマドカリ, ハマトヤドカリ, フミナガフシ,

軟体動物

コモンウミウシ, アオウミウシ, アメフラシ, イソアワモチ, シロウミウシ, クロヘリウミウシ, ムカデメリベ, スカシガイ, オトメガサ, ヒザラガイ, ニシキヒザラガイ, ウスヒザラガイ, ワラシマガイ, カツラガイ, バイ, アカニシ, テンクニシ, クカラガイ, ハガイ, ハタマガイ, ○マテガイ, イシタタミ

端形動物

ゴカイ, フサゴカイ, クマノアシツキ, ケマリムシ, ニモムシ sp

腔腸動物

アサカオクラゲ, ミズクラゲ, アカクラゲ, ○アンドンクラゲ クロカヤ, シロカヤ,

キクメノシ、ヨロイイソギンチャク、ワメホシイソギンチャク、ハイドロソア sp

海綿動物

タカノハ、イソガイメン sp

(小林良七記)

丹生郡厨方面海産動物採集記

(1) 期日 昭和31年7月29・30日

(2) 採集者 横浜國大教授 石井恒理亭

(3) 採集地 丹生郡越前町厨海岸

(4) 参加者 2名 学生生徒20余名

(5) 日程

29日 後1～5時 磯採集

后4～8時 フランクトン採集

ノカ釣尾学

30日 前4～6時 漂遊にて採集

前8～12時 磯採集・横浜恒理亭

后2時 解散

(6) 主な採集品 1 導入標資料中に今まで記載がさしのものは 條項にて示す。
2 日本動物図鑑に記載しあるものは頁数を()の中に示す

A 脊椎動物

*ハナイトギンホ	(308)	ミシマオコゼ	(317)
ツルマキ	(334)	メイタガレイ	(339)
ハチ	(364)	オニオコゼ	(366)
マトダイ	(396)	キユウセン	(401)
イシタイ	(411)	マアナゴ	(470)
アカエイ	(518)	オシザメ	(528)

B 非脊椎動物

カラスボウズ	(535)	キクメノシ	(540)
--------	-------	-------	-------